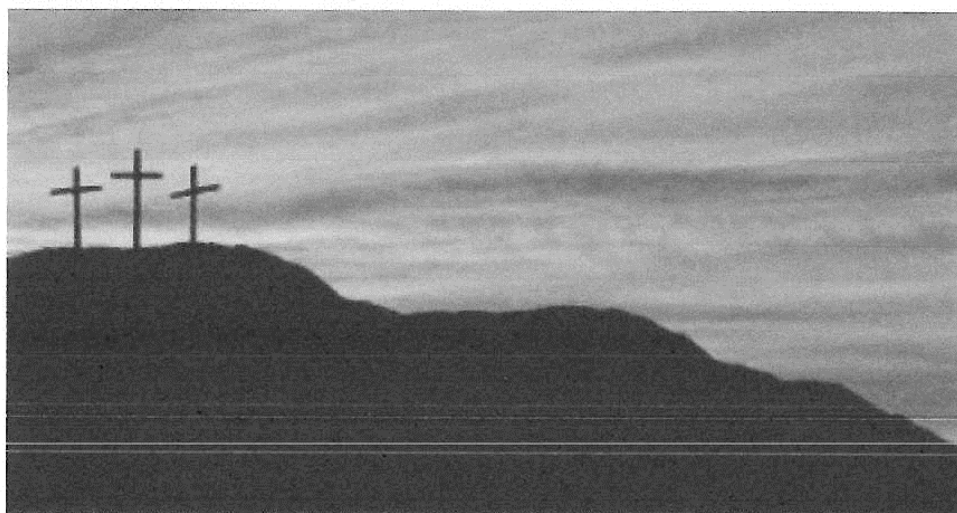


栄光は十字架の上に

ヨハネ17：1～8



<苦難のしもペイエス・キリスト>

私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。 イザヤ53：1～5節

【ローマ帝国下で執行される極刑の十字架刑】

- ・先端に動物の骨や金属がつけられた長い皮のひも(鞭)で打たれた。
- ・さらし者になって、忌むべき者(不吉・汚れたもの)として扱われた。
- ・大勢の人々が周りを取り巻いて、皆の恥辱と侮蔑の標的となった。
- ・自分が架かる十字架を自分自身で背負って、処刑場所にまで行く。
- ・手足を釘で打たれ、窒息死するまで時間をかけて死に至らせる。
- ・十字架によって処せられた者は、囚人たちが葬られる共同墓地の穴に捨てられた。

◆十字架刑は、人の心の奥底に潜む残虐性の現れが表面化したもの。

◆残酷で目を背けたくなるような十字架刑。イエス様は「栄光」と言われた。

そのように、イエス様の十字架を見ているだろうか？

- ・「人の子が栄光を受ける時が来た。」 ヨハネ 12 : 23
- ・ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。
また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。」 ヨハネ 13 : 31
- ・イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて言われた。
「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。」
ヨハネ 17 : 1

◆弟子達はイエス様より大きな業を行うようになる？！

わたしを信じる者は、わたしの行くわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。
わたしが父のもとに行くからです。 ヨハネ 14 : 12

「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。 ヨハネ 7 : 37 ~ 39

◆イエス様は、十字架の上で「渴く」と叫ばれた。

渴いた人々 ローマ兵士 / 宗教家たち / 死刑囚 / 全ての人々